

描画を通して 子どもをはぐくむ

穴井 曜子

.....私の園の研究.....

「幼児の描画はおはなしである。」ということとはよく云われることですが、確かに、じゅうぶんなる自己表現の技術を身につけていない幼児にとって、描画は、ことばを代用する有力な手段とありませんよう。

それ故に、はじめて幼稚園に来て、紙とクレヨンを持った子どもを前にして、私たちのぞんだことは、画面一杯に、自由のびのびと自分を語らせようということでした。

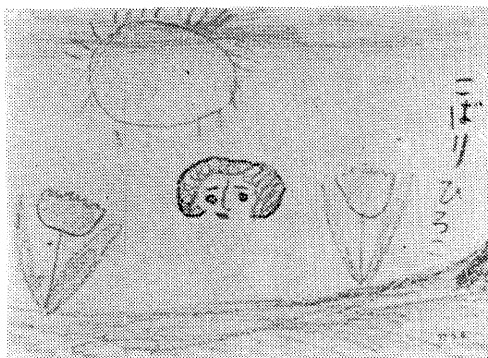
集団生活を生まれてはじめて経験した五才児に、最初から自由な発表を求めることは勿論無理なことですが、それにしても私

たちの失望は、大きいものでした。

すなわち、子どもたちはすでに家庭において描画に関して少なくない経験を持ち、しかも、それがゆがめられた形におしこまれているように見えたからです。大多数の子どもたちが何の感動もなく、「おえかき」という仕事を機械的に片づけているようでした。つまり「絵を描く」という行為について、すでに子どもなりに概念的な考を持っているのです。地面をかいて空を青くぬり、お日様をかき。お家、お花、その他：母親たちの「上手な絵」についての一般的な考えが子どもたちを強く支配している

(1) 図 ひろこちゃん

5月6日

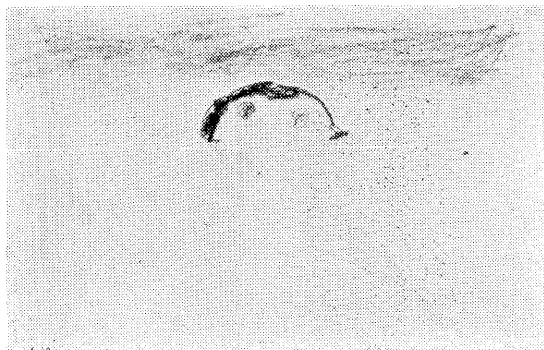


ように見受けられました。特に兄や姉のある子どもに著しくその傾向があったことは申すまでもありません。参照(1)図

既成概念の被害を蒙ることに比較的少なかった子どもたち、ひらたく云えば、あれこれと母親の世話をやかれないうで放り出さ

(2) 図 やちよちゃん

4月19日



れてあった一部の子どもたちだけにだけ素朴な表現を見ることが出来ました。参照(2) 図
対象を自分の目で見て把握し、これを自分自身の方法で表現するということは、純粹に造形的な問題でありましようが、幼児

の場合には、特に教育的な意味を含んで参ります。すなわちそういう体験は、ただちに問題解決的な態度に結びつきますし、また落ち着いた雰囲気の中で集中して仕事をすゝる、という生活指導の面にもかかわりを持って来るからです。何とかして個性的な表現を引き出したい、子どもたちに画面の上で、楽しくのびのびとお話をさせたい、その為には何とかして、彼らがすでに自らを規制している枠のようなものをとりのぞいてやらなければ、というのが私たちの当面した問題でありました。

私たちは、先ず子どもたちに日常の生活経験をそのまま画面の上に語らせようと試みてみました。幼児は元来自己中心的な存在ですから、いつでも自分自身が画面に出てくるのが健康的な状態でしょう。日曜日などに、特に面白かったこと、楽しかったことを思いきって大きくかいてごらん下さい、というのがそれです。

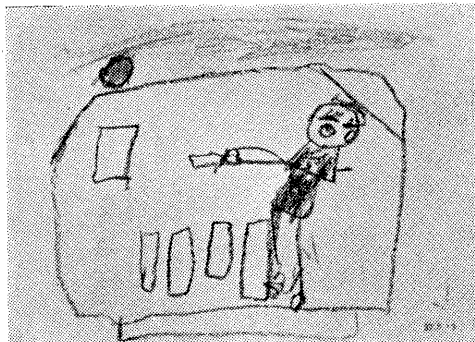
教師の要求をよくのみ込めない子ども、

また理解してもむずかしいから、といつててんから受けつけない子どもなどがあつて、なかなかうまい結果は出て来ませんでしたが、それでも徐々に、子ども自身が画面に出て活躍するようになって来ました。勿論はじめはごく弱々しいものであります

(3) 図 たつきちゃん

「お父さんと僕が日曜にまきわりをした」

5月13日

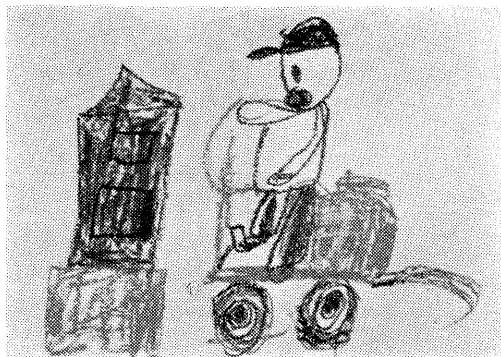


たけれども。 参照③図

私たちのとらねばならなかった第二の処置は、題材に制限を与えるということでした。

これは、表面消極的なやり方のようにもみえますが、「おえかき」という子どもたちの引出しにない、全然新しい表現を引出すのに役立ちました。勿論この場合出て来たものは、おとなの目から見ると、判読に苦むようなものが大部分でしたが、それでも、自分自身の方法で表現しようとする、芽生えは本当に尊いものですから、私たちも大いにほめ、はげましてやったものです。こういう場合、多くの子どもたちが自分の考えはあっても、表現力に乏しい為、どうかいていいかその方法がわからずまごついていることがあります、そのような時には、もっとくわしく思い出して見るように、そして思い切ってもっとくわしく書いて見るようにはげめます。時には、園外に出ていろいろなものを実際に当ってよく

見ることもいたします。遠足のあとなどにはなかなか面白い発表が出てきております。そういうことを楽しい雰囲気できり返えしてあげるうちに、(いつでも、うまいうまいと一応ほめられるものですから)徐々に表



(4)図 たつきちゃん

郵便の單元をしたときに

11月

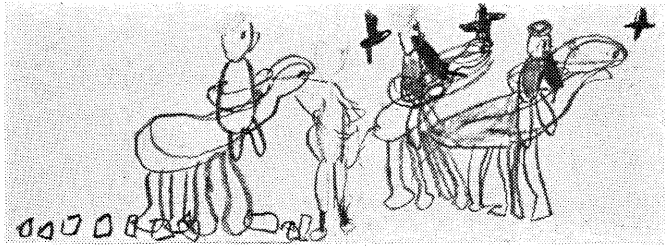
現力もましてきて、よいものが少しずつ生まれてきたように思います。

参照 (4)図

子どものストックにない新しい表現を引き出すのに役立ったもう一つのこととは、お話を聞いたあとで、一番面白かったところを思い出しかかせる方法です。この方法には、子どもたちが、どの程度に話の内容を理解吸収したかを知ることが出来るという利点もありました。

子どもたちが、そのお話に強い興味をもったとき、そのお話が大好きだった時に、特によい結果が見られました。

園全体がうたに、劇あそびに、クリスマス準備に没頭したクリスマスシーズンには、それまで消極的だった子どもにも思い切って楽しい表現が見られました。美しいクリスマスの物語がくりかえして語られるうちに、子どもたちの夢もつばさをはって大きくふくらんだようです。ふしぎに光る大きな星をめでてに、らくだに乗って遠い



(5)図 たつきちゃん
博士たちの旅

旅をした三人の博士、ベツレヘムに宿を求めたヨセフとマリヤ、かいばおけにおやすみのみどりごイエス様、羊飼の礼拝など、画材は豊富にありますし、子どもたち自身も

ページントをしたりしたものですから、興味のり方もひとしおだったようです。

参照(5)図

また「ハンスとヘティの大きなかぶら」の場合には、それぞれに気に入った場面をかかせて、協同で紙芝居にまとめてみました。このときも割合楽しいものが出来ました。

参照(6)図

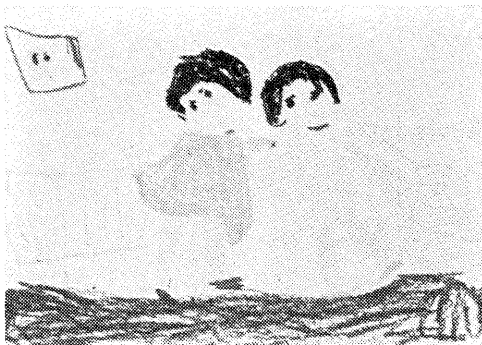
今一つ、写生ということも、卒業間近かになってから試みてみました。

勿論幼児のことですから、写生といっても、おとなのそれとは大分性質を異にするわけですが、それでも、自分の好きなお友だちの顔をよくみて、くわしくかいて見ようという題材は、大いに子どもたちの興味をひき、結果的にもずい分よいものが生まれました。

今までごく常識的に、人形のような人物ばかりかいていた子どもも、教師の要求をよく理解して、画面一杯に堂々と、自分の

目で見たお友だちを、自分の方法で表現いたしました。場所の関係で横向きのところをかいた子どもが、「もうちょっと動かないでくださいよ。むつかしいんだから。」などと真剣にたのんでいる光景も見られました。

参照(7)図、



(6)図 やちよちゃん
「ハンスとヘティのかぶら」

(7) 図 ひろこちゃん
「おともだちのかお」



画面の上に自分を語らせよう、自分自身のやり方を発見させよう……こういう目標をかかげつつ一步一步歩みを続けて早くも一年を経過しようとしておりますが、今ふりかえってみますと、子どもたちの成長の著しさに驚かざるを得ません。作品の一つひとつに確かに、子どもたちの成長のしるしを見ることが出来ます。

既成概念の枠をこぼって、自分に目ざめさせようという努力は、なかなか忍耐のいる仕事でしたが、少しずつ実を結んできたことは事実です。

参照(1)図と(7)図

一方、入園当初に極めて素朴な発表を示した子どもたちが徐々に表現力をまして、ぐいぐいと自己を画面に実現していくようになった過程には、本当に目ざましいものがあります。

参照(2)図と(6)図、(3)図と(4)図及び(5)図

はじめてものをかくことに興味を持ち出した幼児に、質のいい紙とクレヨンを与えたら、彼らは喜々として、めっちゃめっちゃな、なぐり書きをするはずですよ。かなり長期間、やみくもに、ぬたくりをくり返したあとで、よく考えて自分の感じた通りに思い切つてかくのがいいという助言が徐々に与えられるならば、やがて彼らの中に個人的な表現力の芽生えが出てくるはずですよ。そしてまた、もっとくわしく書きたいとい

う努力は、成長の段階を経るに従って、更に力強くしつかりした発表を結果するに至るはずですよ。

自分の目で見て、自分の仕方で把握し、更にそれを個性的な手段で再現する……ということは、自分自身で考え、判断し、行動することにほかなりません。これは、われわれ保育者の高くのぞみ見る「のぞましい人間像」に不可欠の要素であります。

幸い描画は、幼児にとつて最も抵抗の少ないとつき易い経験であるだけに、私は描画を通して子どもをほぐくむことの可能性を固く信ずるものであります。

(常盤幼稚園)

* * *